

四福音書の調和 の 作成

レント(受難節)におけるイエスの「最後の一週間」を

40 日以上にもおよぶ期間を集中して瞑想するためには、それなりの下準備が必要です。なんの準備もなくはじめてしまうなら、途中で挫折してしまうかもしれません。

- 特に、レントを過ごす時季は、年によって多少変動がありますが、受験やら、年度替わりや移動の多い時期です。そこにレントの瞑想が定着しにくい理由があります。

- 共に励まし合いながら、この時を過ごすスピリチュアルフレンドが必要ですが、他にも下準備が必要です。そのひとつに、四福音書を全体をすぐに参照できるものが重要です。そういうものが市販されているかどうか分かりませんが、今回の瞑想でとても役立っているのが「四福音書の調和のノート」です。ノートといっても手書のものではなく、A4 のバインダーノートに、頒布用の新約聖書 2 冊を切り貼りして作成したものです。これは私が神学生時代(今から 30 年以上も前)に、確か 1 年生の夏休みを利用して、キリストの生涯を四つの福音書で同時に読み進めることができるものを作りました。それが今回の瞑想でとても役立っています。

- もしそのようなものがあればとても便利です。時間はかかりますが、自分で作ってみることも大切です。それを作成するにも瞑想と同じく集中力が要ります。作ってみる価値は十分にあります。

- レントが巡って来るたびに、毎年、イエスの最後の一週間の瞑想をこれから試みていきたいと考えています。というのも、イエスの最後の一週間は、聖書のすべてがそこにコンデンスされているからです。私たちの霊性が回復するためには、レントの期間を集中して瞑想できる、ゆったりとした時間が取れるようにする必要があります。しかし、これは現実問題として今日の日本の教会にとってはきわめて困難な課題のように思います。

- ただでも変動の多いこの時季、多くの行事や会議に振り回されることなく、主の前に静まることを最優先するライフスタイルの構築が教会全体として取り組めるかどうかにかかっているように思います。私も長い間、レントの過ごし方を知らずに信仰生活を続けてきました。それは教会として取り組んでいるのを実際に見たことがなかったからです。クリスマス以上に、イエス・キリストの十字架の死と復活の出来事はキリスト者の信仰の土台です。その出来事を物語る「イエスの最後の一週間」はもっと大切に扱われてしかるべき、と思うようになりました。聖書には、旧約のイスラエルの民たちが、繰り返し、繰り返し、出エジプトの出来事を振り返っているように、私たちキリスト者もそうした振り返りが必要です。キリスト者の信仰の土台は、キリストの十字架と復活なのでから・・・。レントの価値と過ごし方を見直したいと思います。

